別紙様式３

上越教育大学研究プロジェクト　終了報告書（特別研究・一般研究）

研究代表者　所属･職名　臨床・健康教育学系・教授
氏　　名　笠 原　芳 隆

研究期間　平成 29 年度 ～ 平成 30 年度

研究プロジェクトの名称	特別な支援が必要な子どもの教科指導推進のための教員養成プログラム検討に関する基礎的研究
研究プロジェクトの概要	本研究では，小･中学校等において，障害のある児童生徒を含む特別な支援が必要な児童生徒への各教科の授業等における合理的配慮の提供に関する「学校のチーム力」を高めるために，学校がどのような研究・研修を行えばよいか，また専門機関がどのように学校と連携していけばよいかについて検討する資料を得ることを目的に，以下の研究を行った。 【研究１】 特別支援学校の各教科の授業等における，①在籍児童生徒への合理的配慮提供の現状と課題，②関連する研究･研修の内容と方法及び研修ニーズに関する調査研究 【研究２】 小・中学校の各教科の授業等における，①特別な支援が必要な児童生徒への合理的配慮提供の現状と課題，②関連する研究･研修の内容と方法及び研修ニーズに関する調査研究
成　果　の　概　要	【研究１】 研究１は，以前から各教科等の授業において個に応じたさまざまな配慮･工夫を行ってきている特別支援学校を対象に調査を行った。多くの学校で「チーム力」を発揮して児童生徒の合理的配慮を設定していた。一方で，合理的配慮という表現の浸透等が課題として挙げられており，今後さらに校内研究や研修を通して支援体制の充実を図っていくことの必要性が示唆された。 【研究２】 研究２は，今後合理的配慮を適切に行っていくことになる小・中学校を対象に，その現状を明らかにした。回答があった学校の 6 割以上で，合理的配慮について特別支援教育に関する校内委員会等の場において，特別支援教育コーディネーターを中心に，管理職や生活・生徒指導主任，特別支援学級担任等複数の教員がチームで検討していることが明らかになった。また，8 割以上の学校で，授業における合理的配慮について，個別の指導・支援計画に記述していることも分かった。さらに，合理的配慮設定に向けて，特別支援教育コーディネーターが校外で受けた研修の内容を生かしていること，今後校外で受けたい研修テーマとして，具体的な合理的配慮の実践例の他，教科担任制である中学校における，合理的配慮に関する教員間での情報共有の在り方等が挙げられていることも明らかになった。
研究成果の発表状況	研究１の特別支援学校を対象とした調査研究の結果については，日本特殊教育学会第 55 回大会でポスター発表を行った。また２の小・中学校を対象とした調査研究の結果については，2019 年 9 月に行われる日本特殊教育学会第 56 回大会で発表する予定である。